

# 第十三課

## 言葉の力

国はあつち  
来るといふ酒を  
人であつち  
酒の味は  
うまいさやうな味  
酒を飲む  
人





# 単語

背負う → 担う、負う

淡い：① 色・味・香りなどが薄い。 ↔ 濃い。「—・い水色」「—・い甘さ」② 形や光などがぼんやりした状態だ。かすかである。ほのかである。「—・い雲」「街灯の—・い光」③ 関心や執着の度合が薄い。「—・い恋心」「—・い希望」④ 軽薄だ。軽々しい。

→ 浅い：① 到達度が低い。十分な程度に達していない。「理解が—・い」「経験が—・い」② 時間があまり経過していない。「知り合ってから日が—・い」「春はまだ—・い」③ 色が薄い。

「—・い緑色」

素人 → 玄人

気安い：気がおけない。心安い。 → 気楽

ゴツゴツ：① 硬くて、でこぼこなどのあるさま。なめらかでないさま。「—（と）した岩」② 荒っ



# 単語

ぽいさま。「ぶっきらぼうでーした人」

じょうき（上気・上記・蒸気・常規）

揺らぐ：① ゆれ動く。基礎がぐらつく。「地震で家がー・ぐ」② 安泰でなくなる。危なくなる。

「業界トップの地位がー・ぐ」

→ 揺れる：① ある点を中心として前後，左右，上下などに動く。「木の枝がー・れる」「船がー・れる」「ぶらんこがー・れる」② （本来一定しているはずのものが）一定しない状態にある。「判断の基準がー・れる」

→ ぐらつく：① しっかりしているはずのものがぐらぐらする。「机がー・く」「歯がー・く」

② 決心・結論に確信がもてず動揺する。「親の反対で決心がー・く」



# 単語

→ 揺らめく：ゆらゆらする。

最上 → 上級、高級

エッセンス → 真髄

雨中 → 宇宙

引きずる：① 床や地面に触れたままで物を引っぱって行く。「荷物を－・って運ぶ」② 長く垂れ下がって床や地面をこするようになる。「着物のすそを－・って歩く」③ 無理に引っ張る。「泣く子を－・って帰る」④ だらだらと長びかせる。「まだ風邪を－・っている」「審議を－・る」⑤ (受け身の形で) 影響される。しようと思わないのに、ついそうさせられる。「先行学説に－・られる」



# 文型

## 1. っぽい (N2)

接尾語「～っぽい」はいろいろな語について、「～の傾向が強い」「～の要素が多い」という意味を表す形容詞を作る。意味的には、主に、①「本来はそうあってはいけないのに～だ」という悪い評価と②そのとき、その場の外見からの印象を表す。

例：安っぽい、白っぽい、熱っぽい、忘れっぽい

## 2. ～づく

接尾語であり、意味的には、①そのような状態になる、そういう様子が強くなる意を表す。

例：「秋—・く」「調子—・く」

②そういう事が頻繁に起こる、しょっちゅうそういう状態になるの意を表す。「お客—・いてい



# 文型

る」



# 精読

- 1.言葉の本質はどこにあるのか。
- 2.「言葉の一語一語は、桜の花びら一枚一枚だと言っていい」と作者は言っているが、あなたはそれをどう理解しているのか。
- 3.言葉の力はどういうことなのか、また、あなたはそれをどう理解しているのか。
- 4.美しい言葉や正しい言葉というのは、一体どのような言葉なのか。